高田琢弘, and 湯川進太郎. "日本人成人におけるギャンブル接触の実態." *感情心理学研究*26.Supplement (2018): ps03-ps03.

近年、日本国内にカジノを導入する動きが本格的に進められており、日本のギャンブルを取り巻く状況は大きな転換期を迎えている。その一方でギャンブル障害といった問題があり、海外の先進国と比較しても日本における有病率は相対的に高いことが指摘される。そのギャンブル障害との関連が指摘されている要因の一つとしてパーソナリティ特性があげられる。Bagby, Vachon, Bulmash, Toneatto, Quilty, & Costa(2007）は、ギャンブル障害であるギャンブラーと通常のギャンブラーとの間でパーソナリティ特性の比較を行った。その結果、神経症傾向、調和性、誠実性において優位な差があった。本研究では日本人成人（20~64 歳）900 人を対象にギャンブル接触と Big Five パーソナル特性との関連を検討している。その結果、調査協力者の47.67%が今までに何らかのギャンブルを経験していたことがあり、Big Five との関連に関しては情緒不安定性は正の相関、誠実性と調和性には負の相関があった。